



8 システムのアップグレード








Express5800/ftサーバに取り付けられるオプションの取り付け方法、および故障したデバイスの交換手順や注意事項について記載しています。








- ここで示すオプションの取り付け/取り外しはユーザー個人でも行えますが、この場合の装置、および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け/り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルはNECが指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります。
- オプションの取り付け・取り外し後に[ESMPRO ServerAgent]の[ESRASユーティリティ]を起動して構成情報を[最新の情報に更新]してください。

安全上の注意

安全に正しくオプションの取り付け・取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。

 警告	
     	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、1-6ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない● CD-ROMドライブの内部をのぞかない● リチウム電池を取り外さない● プラグを差し込んだまま取り扱わない

 注意	
   	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、1-6ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 一人で取り付け・取り外しをしない● カバーを外したまま取り付けない● 中途半端に取り付けない● 指を挟まない● 高温注意

静電気対策について

Express5800/ftサーバ内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による製品の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ(アームバンドや静電気防止手袋など)の着用**

リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に筐体の塗装されていない金属表面に触れて身体に蓄積された静電気を放電します。また、作業中は定期的に金属表面に触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

- ー 静電気防止処理が施された床、またはコンクリートの上で作業を行います。
- ー カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

静電気防止マットの上に本装置を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

- ー ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
- ー 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
- ー 取り付け前に貴金属(指輪や腕輪、時計など)を外してください。

- **部品の取り扱い**

- ー 取り付ける部品は本装置に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
- ー 各部品の縁の部分を持ち、端子や実装部品に触れないでください。
- ー 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

増設・交換の基本

増設や交換をするときは、ftサーバとしての機能を十分に発揮するために次の点について注意してください。

- Express5800/ftサーバでは、連続運転をしている間にデバイスの交換をします。感電やショートによる部品の破損には十分注意してください。
- 連続運転をしている間は、オプションの取り付け・取り外しができません。OSから正しくシャットダウン処理をした後、POWERスイッチを押下し、装置本体の電源をOFF (POWERランプ消灯)にして、接続しているすべての電源コードおよびインターフェースケーブルを取り外してから始めてください。
- Express5800/ftサーバの連続運転中にCPUモジュールおよびPCIモジュールを取り外す場合は、ESMPRO/ServerAgentの「ftサーバユーティリティ」またはネットワーク上の管理PCから「ESMPRO/ServerManager」を使用して取り外すモジュールを停止(オフライン)してから取り外してください。取り付け後は、取り外しと同様にftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerから取り付けしたモジュールを起動(オンライン)してください。



Express5800/ftサーバの初期設定では、モジュールを取り付けたときに自動的に起動するよう設定されています。設定はftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerから変更することができます。詳しくは第5章を参照してください。

- 必ず両方のグループのハードウェア構成を同じにしてください。
- デバイスを取り付けるスロットやソケットは、もう一方のグループと同じにしてください。
- 規格や性能、機能の異なるデバイスを取り付けしないでください。
- CPUモジュールやPCIモジュールの固定ネジを外す前にftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerから取り外すモジュールをオフラインにしてください。
- CPUモジュールやPCIモジュールの交換の際には、取り外した後、5分以上時間を空けてから取り付けてください。

3.5インチハードディスク

Express5800/ftサーバの前面にある3.5インチデバイスベイには、SCA2インタフェースを持つハードディスクを取り付けるスロットを6つ用意しています。

この項で説明する図は、タワーモデルを示します。ラックマウントモデルと比べると向きが異なるだけです。

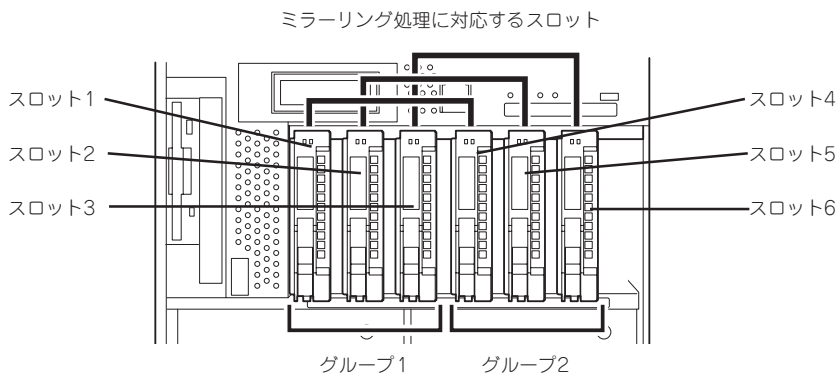


- NECで指定していないハードディスクを使用しないでください。サードパーティのハードディスクなどを取り付けると、ハードディスクだけでなくExpress5800/ftサーバ本体が故障するおそれがあります。ハードディスクは、同じモデルを2台1組みでお買い求めください。Express5800/ftサーバに最適なハードディスクについては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- PCIモジュール#1から起動した時、ハードディスクはデバイスベイのスロット1からOSが起動します。PCIモジュール#2から起動した時、ハードディスクはデバイスベイのスロット4からOSが起動します。

6つのスロットには約25.4mm(1インチ)厚のハードディスクを取り付けることができます。デバイスベイにはスロット番号が記載されたラベルが貼られています。

スロット番号1~3が「グループ1」用のハードディスク、スロット番号4~6が「グループ2」用のハードディスクです。

グループ内のハードディスクは、もう一方のグループに搭載されているハードディスクとミラーリングされています。ミラーリングに対応するスロットは、スロット1と4、2と5、3と6となっています。次に、グループ単位とミラーの対象となるスロットを示します。



ハードディスクベイの空きスロットにはダミートレーが入っています。ダミートレーは装置内部の冷却効果を高めるためのものです。ハードディスクを搭載していないスロットにはダミートレーを取り付けてください。

ハードディスクトレイのハンドル部にハードディスクを実装したスロット番号に対応した「HDD IDラベル」を貼り付けてください。

取り付け

次に示す手順でハードディスクを取り付けます。その他のスロットへの取り付けも同様の手順で行えます。



- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。
- ディスク二重化を構成する2台を実装してから、OSを起動してください。必ず、ディスク二重化の設定を行ってください。

1. OSから正しくシャットダウン処理をする。

POWERスイッチを押し、装置本体の電源をOFF (POWERランプ消灯)にします。

2. 電源コードを本体から外す。

3. <タワーモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを開く。

<ラックマウントモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。

4. ハードディスクを取り付けるスロットを確認する。

ハードディスクは各グループ内で空いているスロットのうち、左のスロットから順に取り付けます。

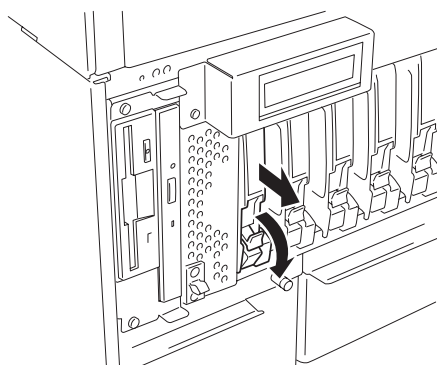
すべてのスロットにトレイが差し込まれています。トレイのハンドル部分にあるレバーの色が白色のものはダミートレイ(トレイに冷却用スポンジが取り付けられています)です。青色のレバーはトレイにハードディスクが搭載されています。

5. ダミートレイのレバーを手前に引いてロックを解除してからハンドルを持って手前に引き出す。

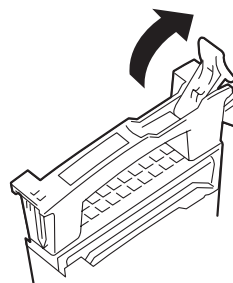


ダミートレイは大切に保管しておいてください。

6. ハードディスクのロックを解除する。



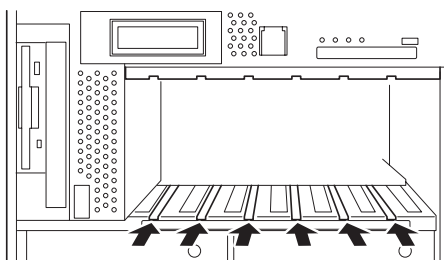
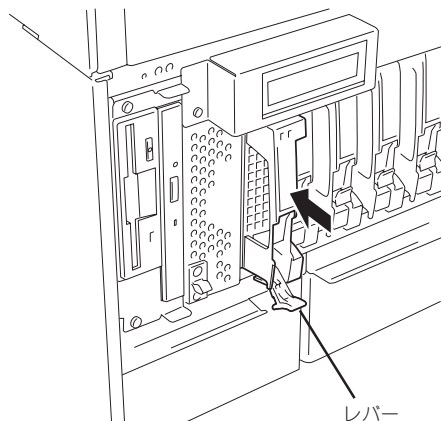
7. ハードディスクのロックを解除する。



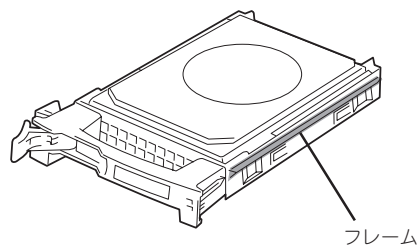
8. 増設するハードディスク(トレー付き)のハンドルをしっかりと持ってスロットへ挿入する。

✓ **チェック**

- トレーの上下にあるフレームをデバイスベイ左右にある溝に合わせて差し込んでください。
- レバーのフックがフレームに当たるまで押し込んでください。
- レバーの向きを確認してください。また、レバーは解除した状態のまま挿入してください。



ハードディスクのフレームを差し込む溝



9. レバーをゆっくりと閉じる。
「カチッ」と音がしてロックされます。

🔑 **重要**

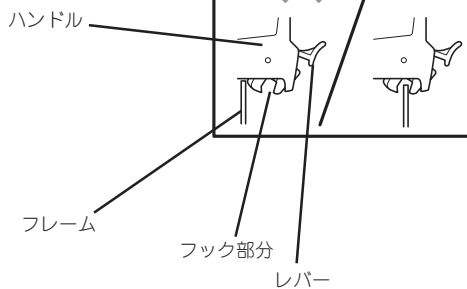
レバーとハンドルに指を挟まないように注意してください。

✓ **チェック**

レバーのフックがフレームに引っ掛かっていることを確認してください。



10. 電源コードを接続する。
11. POWERスイッチを押して、電源をONにする。



12. <タワーモデルの場合>

フロントベゼルを閉じて、セキュリティキーでロックする。

<ラックマウントモデルの場合>

フロントベゼルを取り付けて、セキュリティキーでロックする。

13. 26ページを参照して、ディスク二重化の設定する。

取り外し

次の手順でハードディスクを取り外します。



作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。

1. OSからシャットダウン処理をする。

POWERスイッチを押し、装置本体の電源をOFF(POWERランプ消灯)にします。

2. 電源コードを本体から外す。

3. <タワーモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを開く。

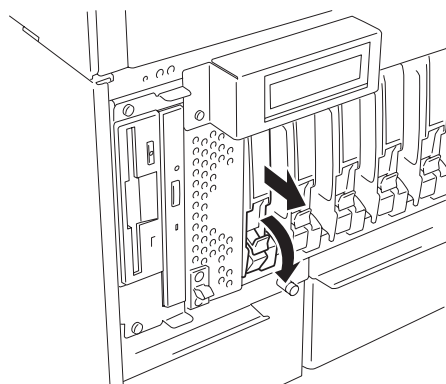
<ラックマウントモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。

4. ハードディスクのレバーを手前に引いてロックを解除してからハンドルを持って手前に引き出す。

5. 「取り付け」を参照して、ダミートレーを取り外したスロットへ取り付ける。

装置内部のデバイスの冷却効果を高めるためにダミートレーを取り付けてください。



交換

交換方法については、第3章の「RAIDの設定(内蔵ディスク)」(3-26ページ)を参照してください。

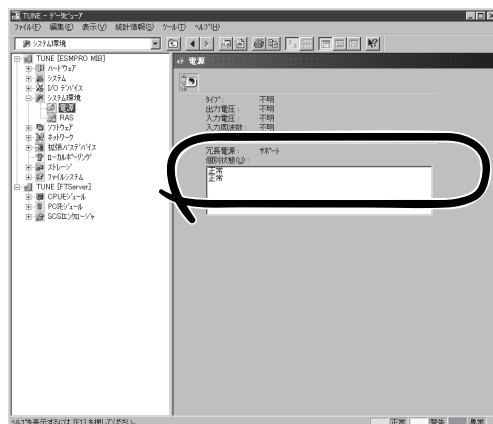
電源ユニット

電源ユニットが故障すると、冗長機能を失っています。早急に交換してください。
この項で説明する図は、タワーモデルを示します。ラックマウントモデルと比べると向きが異なるだけです。

1. Express5800/ftサーバ背面から電源ユニットのパワーアラートランプ(▲)を見て故障している電源ユニットを特定する。

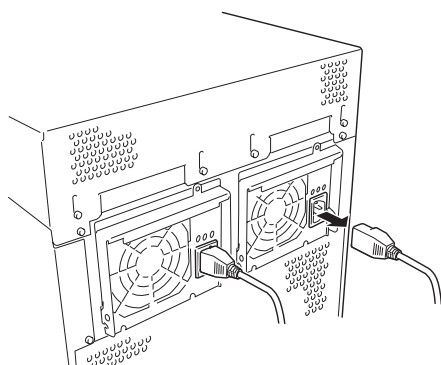
ESMPRO/ServerManagerのデータビューアからも故障した電源ユニットの特定ができます。

[ESMPRO MIB]→[システム環境]→[電源]

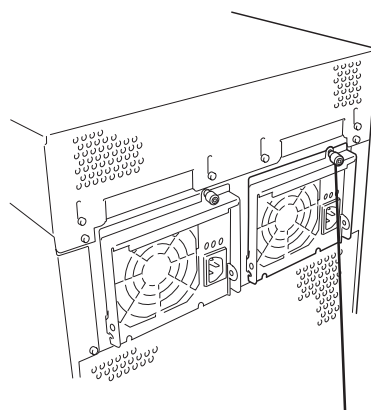


システムのアップグレード

2. 故障した電源ユニットから電源コードを取り外す。

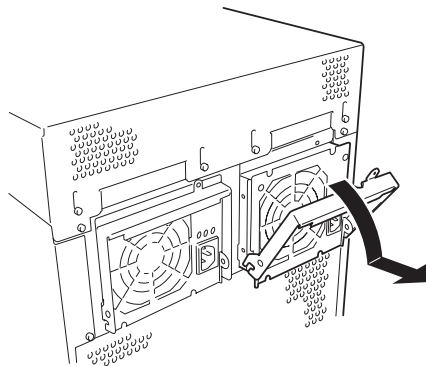


3. 故障した電源ユニットを固定しているセットスクリューをゆるめる。



セットスクリュー

4. 電源ユニットのハンドルを倒し、手前に引いて装置から取り出す。



5. 正常な(交換する)電源ユニットを差し込む。



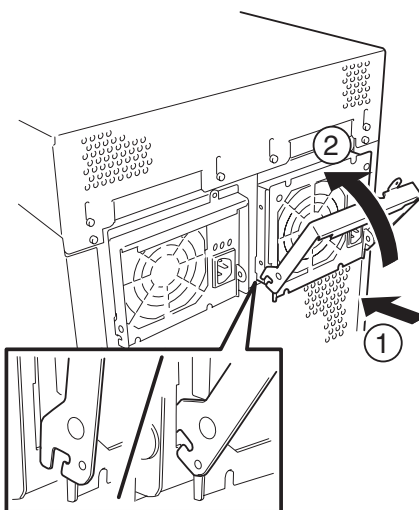
ハンドルのフックがフレームに引っ掛かっていることを確認してください。

6. ハンドルを持ち上げる。

電源ユニットのパワーサプライランプ (💡) が点灯します。点灯しなかったり、他のランプが点灯した場合は、もう一度取り付け直してください。それでも、同じ症状がでた場合は、保守サービス会社に連絡してください。

7. 手順3で外したネジで固定する。

8. 電源コードを接続する。



CPUモジュール

CPUモジュール内には、次のデバイスが搭載されています。

- CPU(プロセッサ)
- VRM(プロセッサ用の電源モジュール)
- DIMM(メモリ)
- 冷却ファン

これらのデバイスを交換する際にCPU モジュールを取り外します。この項で説明する図は、タワーモデルを示します。ラックマウントモデルと比べると向きが異なるだけです。



- 冷却ファンおよびCPUモジュール本体の交換は保守サービス会社に依頼してください。
- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。
- DIMMの増設や取り外しの際は、装置本体の電源をOFFにしてからCPUモジュールを取り外してください。以下の取り外し/取り付け手順はDIMMを交換する際の手順です。
- 動作しているモジュールを抜くと、予期せぬ障害が発生することがあります。確実にモジュールの動作が停止している状態で抜くために、管理ソフト(ftサーバーティリティやESMPRO/ServerManager)を使って切り離しを行ってください。切り離し後、CPUモジュールのステータスランプを確認してから、該当モジュールを抜いてください。
- モジュール固定用ネジは、工具などを使わず手で取り扱ってください。
- モジュール自体を交換した際には、モジュールを固定しているネジの上部にモジュール番号に対応した「HDD ID ラベル」を貼付してください。

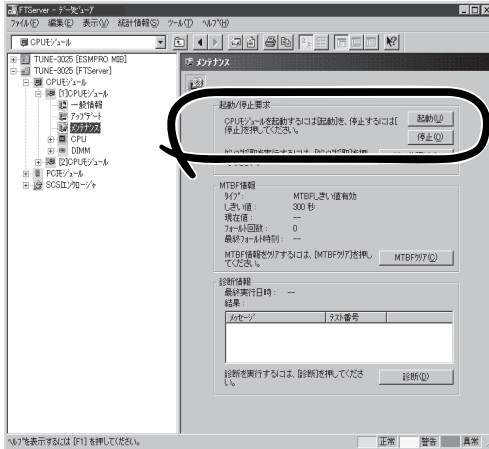
取り外し

次の手順に従ってCPUモジュールを取り外します。

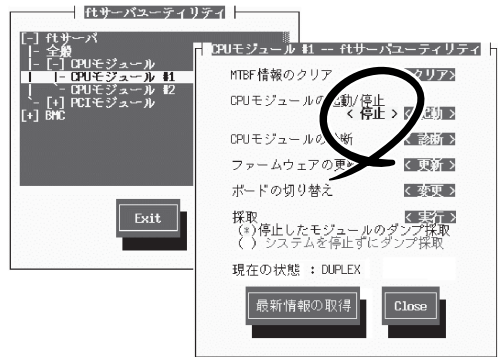
1. 取り外すCPUモジュールの動作を停止させる。

停止はExpress5800/ftサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのftサーバユーティリティ、またはESMPRO/ServerManagerのデータビューアから行います。

詳細は、第5章の「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



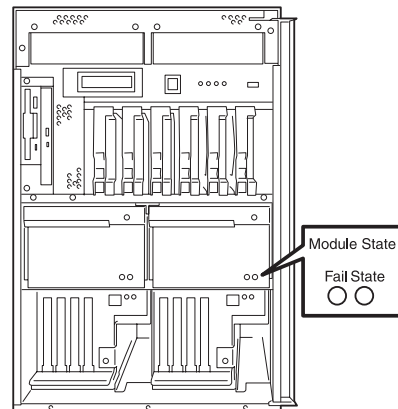
ESMPRO/ServerManagerの場合
[FTServer]-[(取り外す)CPUモジュール]-[メンテナンス]-[起動/停止要求]-[停止]ボタン



ftサーバユーティリティの場合
[ftサーバ]-[CPUモジュール]-[(取り外す)CPUモジュール]-[停止]ボタン

オフラインになったCPUモジュールはステータスランプの表示が次のようになります。

Failランプ: 赤色
Stateランプ: 消灯



2. <タワーモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを開く。

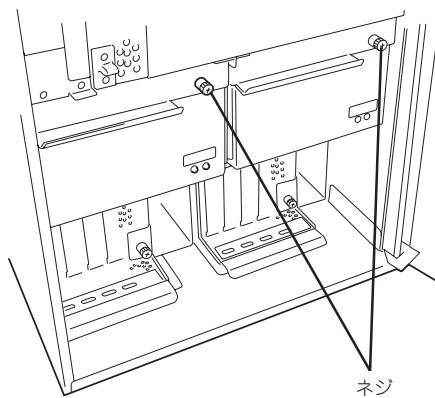
<ラックマウントモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。

- 取り外すCPUモジュールを固定しているネジをゆるめる。

✓ チェック

ネジをゆるめた瞬間、CPUモジュールへの電源の供給が停止します。ネジをゆるめる前にもう一度、取り外すCPUモジュールを確認してください(手順1参照)。

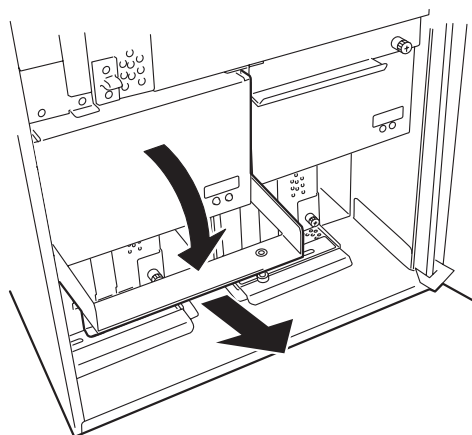


- CPUモジュールのハンドルを持って、引き下げる。

CPUモジュールが少し前に引き出されます。

- ハンドルをしっかりと持ちながら、取り外しに関する警告ラベルが見えるまでゆっくりと静かに引き出す。

警告ラベルはCPUモジュールに貼られています。ラベルが見えるまでゆっくりと引き出してください。



🔑 重要

ネジの頭を持って引き出さないでください。

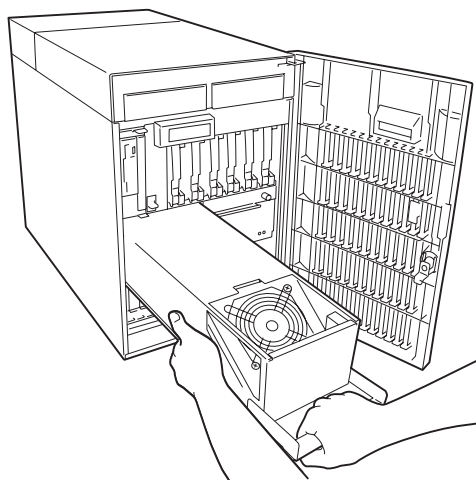
- 一方の手でハンドルを持ち、もう一方の手でCPUモジュールの底面をしっかりと支えながら本体から取り出す。

🔑 重要

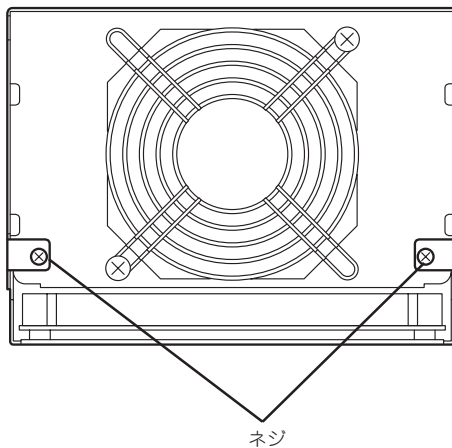
CPUモジュールを落としたり、装置内部の部品にぶつけないよう慎重に取り扱ってください。

- CPUモジュールを平らでじょうぶな机の上に静かに置く。

ほこりや水気のない場所においてください。

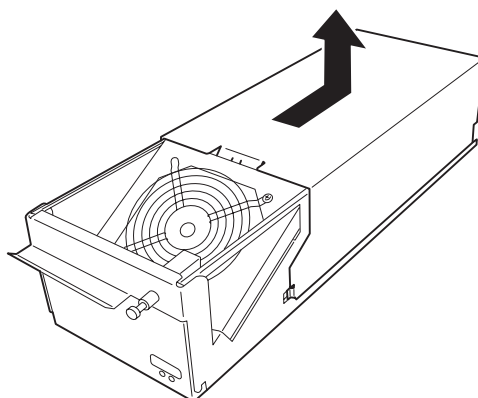


8. CPUモジュール背面にあるネジ(2本)を外す。



9. CPUモジュールを覆っているカバーを取り外す。

以上でCPUモジュール内部のデバイスを取り扱う準備ができました。以降の手順については、それぞれのデバイスの項を参照してください。



取り付け

次の手順に従ってCPUモジュールを取り付けます。

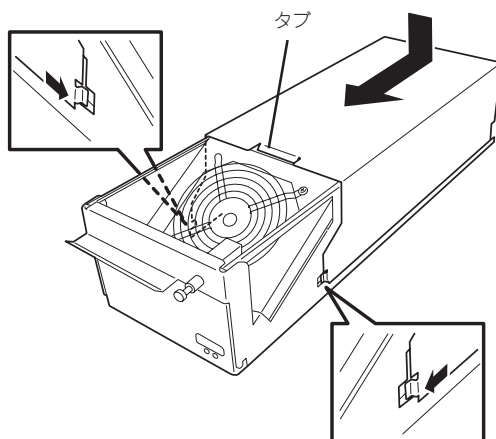


- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。
- 取り外してから5分以上、時間を空けてから取り付けてください。

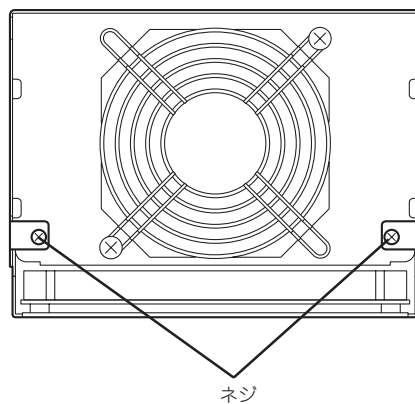
1. CPUモジュールを覆っているカバーを取り付ける。



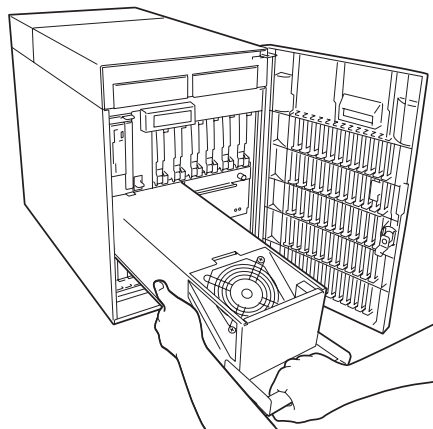
カバーにあるタブ(左右と上面)がCPUモジュールに確実に引っかかっていることを確認してください。



2. ネジ(2本)でカバーを固定する。



3. CPUモジュールを両手でしっかりと持って本体へ差し込む。



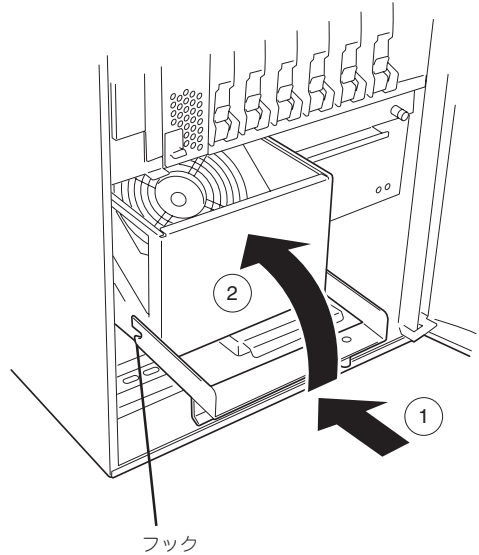
4. ハンドルを倒した状態のまま本体に突き当たるまで差し込む。
5. CPUモジュールのハンドルを引き上げる。

ハンドルの可動軸部分にあるフックが本体に引っかかり、装置に接続されます。

重要

ハンドルをネジで固定できるところまで完全に引き上げてください。

6. CPUモジュールのネジで固定する。

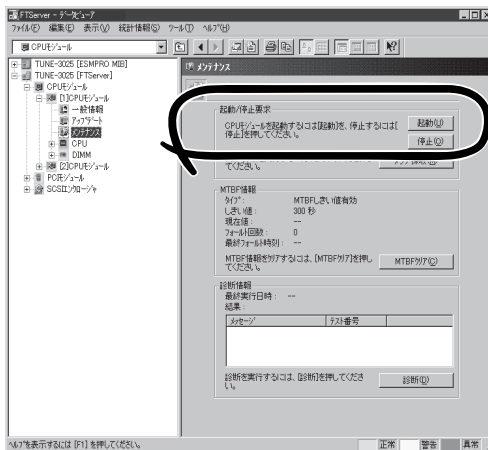


7. 取り付けたCPUモジュールを起動させる。

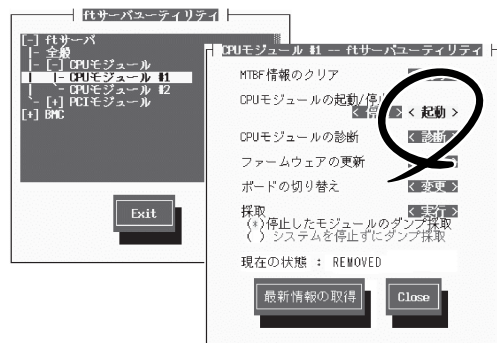
Express5800/ftサーバの初期設定では、CPUモジュールを取り付けると自動的に起動するようになっています。

自動的に起動しないように設定している場合は、Express5800/ftサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのftサーバユーティリティ、またはESMPRO/ServerManagerのデータビューアから起動させてください。

詳細は、第5章の「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



ESMPRO/ServerManagerの場合
[FTServer]-[取り付けたCPUモジュール]-[メンテナンス]-[起動/停止要求]-[起動]ボタン



ftサーバユーティリティの場合
[ftサーバ]-[CPUモジュール]-[取り付けたCPUモジュール]-[起動]ボタン

DIMM

DIMM(Dual Inline Memory Module)は、Express5800/ftサーバに取り付けられているCPUモジュールボード上のDIMMソケットに取り付けます。

CPUモジュールボード上にはDIMMを取り付けるソケットが4個あり、標準で256MBのDIMMが1枚、DIMM#1に取り付けられています(標準で取り付けられているDIMMも交換することができます)。

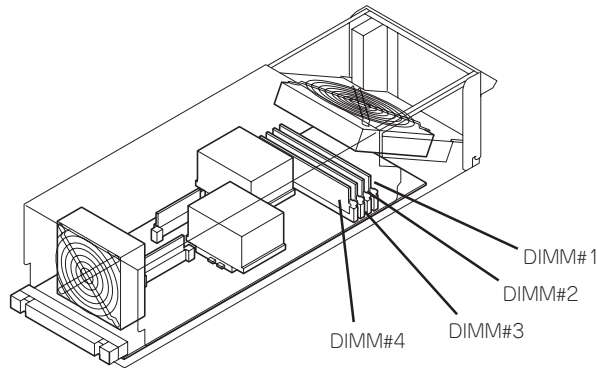
DIMMはDIMMソケット番号の小さい順に取り付けます。



- メモリは最大2GB(512MB×4枚)まで増設できます。
- POSTやESMPRO、オフライン保守ユーティリティのエラーメッセージやエラーログではDIMMコネクタのことを「グループ」と表示される場合があります。グループの後に示される番号は下図のコネクタ番号と一致しています。



- DIMMは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は8-3ページで詳しく説明しています。
- NECで指定していないDIMMを使用しないでください。サードパーティのDIMMなどを取り付けると、DIMMだけでなくサーバ本体が故障するおそれがあります。また、これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。
- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。



CPUモジュール

DIMMの増設・交換の際は、次の点について注意してください。

- DIMMはそれぞれのグループの中で同じDIMM番号間で連携をとっています。
一方のグループにDIMMを取り付けたら、もう一方の同じソケットにもDIMMを取り付けてください。取り外した場合も同じです。
- グループ間で連携しているDIMMは同じ製品、および性能のものを使ってください。
- DIMMはDIMM番号の小さい順に取り付けてください。

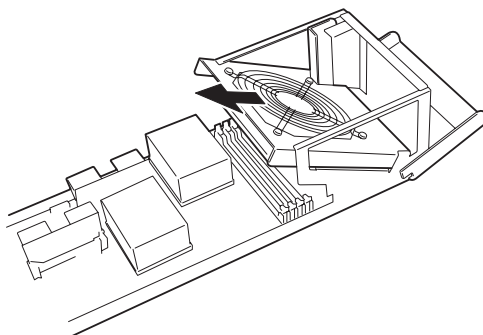
取り付け

次の手順に従ってDIMMを取り付けます。DIMMの交換以外の場合は、本体装置の電源をOFFにしてから作業をしてください。

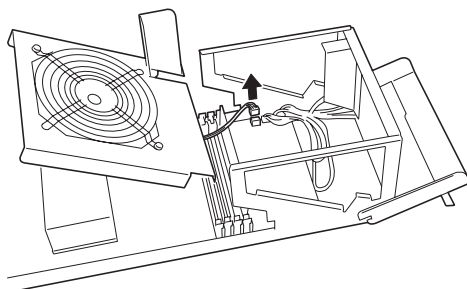
1. OSから正しくシャットダウン処理をする。
POWERスイッチを押し、装置本体の電源をOFF (POWERランプ消灯) にします。
2. 電源コードをコンセントから外す。
3. 8-12ページを参照してCPUモジュールを取り外す。
4. 冷却ファン1をスライドさせて取り外す。

重要

冷却ファン1のケーブルがCPUモジュールボードに接続されたままです。ケーブルを破損させないように、ゆっくりと静かに取り外してください。



5. CPUモジュールボードのコネクタから冷却ファン1ケーブルを取り外す。

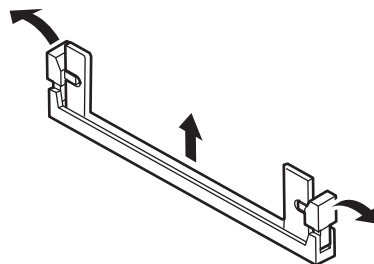


6. DIMMを取り付けるソケットを確認する。
7. DIMMを取り付けるソケットからDIMMコネクタカバーを取り外す。

DIMMが取り付けられていないコネクタにはDIMMコネクタカバーが取り付けられています。コネクタの両側にあるレバーを左右にひろげると、ロックが解除されDIMMを取り外せます。

重要

取り外したDIMMコネクタカバーは大切に保管しておいてください。

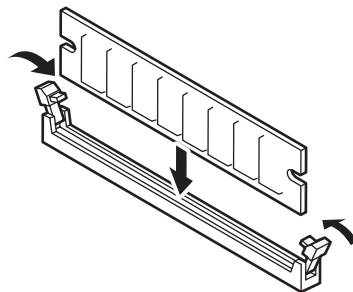


8. DIMMをソケットにまっすぐ押し込む。



DIMMの向きに注意してください。
DIMMの端子側には誤挿入を防止するための切り欠きがあります。

DIMMがDIMMソケットに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。

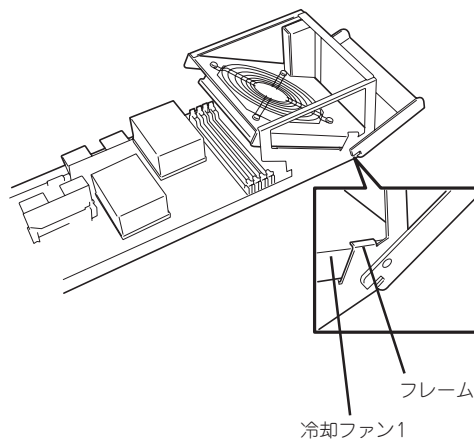


9. 取り外した冷却ファン1ケーブルを接続して、ファンを取り付ける。



冷却ファン1がCPUモジュールのフレームで押さえられていることを確認してください。

10. 8-15ページを参照してCPUモジュールを取り付ける。



11. 電源コードを接続する。

12. POWERスイッチを押して、電源をONにする。

13. POSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

エラーメッセージが表示されたときは、メッセージをメモした後、7-15ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

取り外し

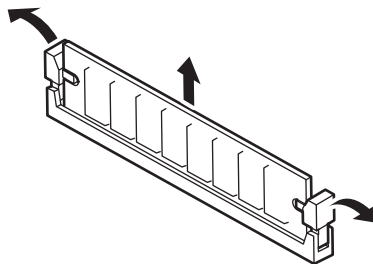
次の手順に従ってDIMMを取り外します。DIMMの交換以外の場合は、本体装置の電源をOFFにしてから作業をしてください。



チェック

DIMMは最低1枚搭載されていないとExpress5800/ftサーバは動作しません。

1. OSのシャットダウン処理をする。
自動的に本体の電源がOFFになります。
2. 電源コードをコンセントから外す。
3. 8-12ページを参照してCPUモジュールを取り外す。
4. 「取り付け」の手順3～4を参照して、冷却ファン1をスライドさせて取り外し、ファンケーブルを取り外す。
5. 取り外すDIMMのソケットの両側にあるレバーを左右にひろげる。
ロックが解除されDIMMを取り外せます。
6. 「取り付け」の手順9を参照して、冷却ファン1を取り付ける。
7. 8-15ページを参照してCPUモジュールを取り付ける。
8. 電源ケーブルを接続する。
9. POWERスイッチを押して、電源をONにする。
10. POSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。
エラーメッセージが表示されたときは、メッセージをメモした後、15ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。



交換

故障したDIMMを交換する場合は次の手順を行ってください。



1. ESMPRO/ServerManagerのデータビューアから故障したDIMMを確認する。
2. 8-12ページを参照してCPUモジュールを取り外す。
3. 「取り付け」の手順2~3を参照して、冷却ファン1をスライドさせて取り外し、ファンケーブルを取り外す。
4. DIMMを交換する。
5. 「取り付け」の手順7を参照して、冷却ファン1を取り付ける。
6. 8-15ページを参照してCPUモジュールを取り付ける。
7. ESMPRO/ServerManagerまたはftサーバユーティリティからCPUモジュールを起動する。

PCIモジュール

PCIモジュールには、PCIボードを4枚搭載することができます。

各PCIモジュールに3枚、合計6枚のPCIボードを増設できます(ビデオボードを各1枚標準で搭載済み)。

PCIボードを増設・交換する際にPCIモジュールを取り外します。この項で説明する図は、タワーモデルを示します。ラックマウントモデルと比べると向きが異なるだけです。



- 冷却ファンおよびPCIモジュール本体の交換は保守サービス会社に依頼してください。
- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。
- モジュール固定用ネジは、工具などを使わず手で取り扱ってください。
- モジュール自体を交換した際には、モジュールを固定しているネジの上部にモジュール番号に対応した「HDD ID ラベル」を貼付してください。

注意事項

- Primary(動作中側)モジュールを抜くと予期せぬ障害が発生します。確実にSecondary(非動作側)を抜いてください。
- Primary BMC側のPCIモジュールを抜く場合、もう片側(Secondary BMC)が「同期状態」でないと、SG情報(システム情報)などを失ってしまいます。STATUSランプの一方が赤色の点滅の場合、赤色に点滅してない方のPCIモジュールを取り外してはいけません。

— DC電源OFF時

BMC#1	BMC#2	状態
消灯 (Primary)	赤色に点滅 (Secondary) (1秒間隔)	Primary BMC側 PCI module を取り外さないでください。 BMC Sync不可
消灯 (Primary)	赤色に点灯 (Secondary)	どちらのPCI moduleとも取り 外さないでください。 BMC Sync中
消灯 (Primary)	赤色に点滅 (Secondary) (0.5秒間隔)	点滅が終わるまでPCIモジュ ールを固定しているネジをゆ るめたり、AC電源をOFFにし たりしないでください。

— DC電源ON時

BMC#1	BMC#2	状態
緑色に点灯 (Primary)	赤色に点滅 (Secondary) (1秒間隔)	Primary BMC側 PCI module を取り外さないでください。 BMC Sync不可
緑色に点灯 (Primary)	赤色に点灯 (Secondary)	どちらのPCI moduleとも取り 外さないでください。 BMC Sync中
緑色に点灯 (Primary)	赤色に点滅 (Secondary) (0.5秒間隔)	点滅が終わるまでPCIモジュ ールを固定しているネジをゆ るめたり、AC電源をOFFにし たりしないでください。

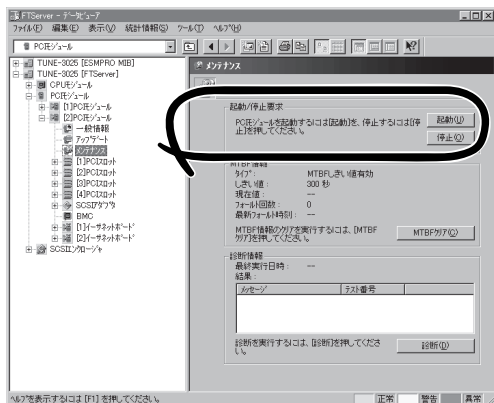
取り外し

次の手順に従ってPCIモジュールを取り外します。

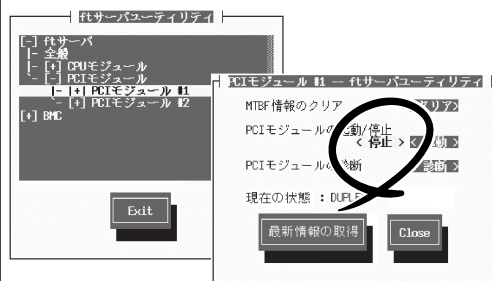
1. 取り外すPCIモジュールの動作を停止させる。

停止はExpress5800/ftサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのftサーバユーティリティ、またはESMPRO/ServerManagerのデータビューアから行います。

詳細は、第5章の「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



ESMPRO/ServerManagerの場合
[FTServer]-[(取り外す)PCIモジュール]-[メンテナンス]-[起動/停止要求]-[停止]ボタン



ftサーバユーティリティの場合
[ftサーバ]-[PCIモジュール]-[(取り外す)PCIモジュール]-[停止]ボタン

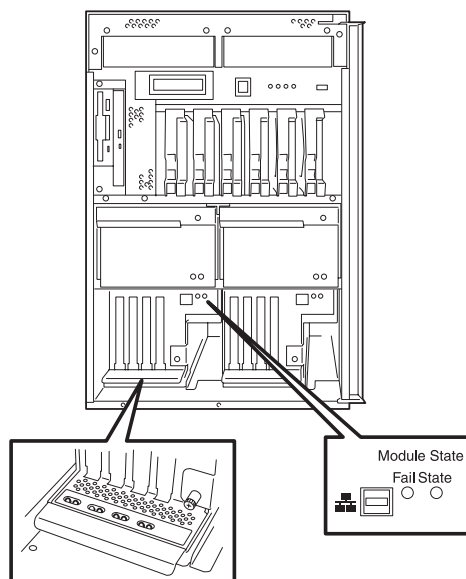
オフラインになったPCIボード、およびPCIモジュールはステータスランプの表示が次のようになります。

PCIボード(すべてのランプにおいて)

- Failランプ: 赤色
- Stateランプ: 消灯

PCIモジュール

- Failランプ: 赤色
- Stateランプ: 消灯



2. <タワーモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを開く。

<ラックマウントモデルの場合>

セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。

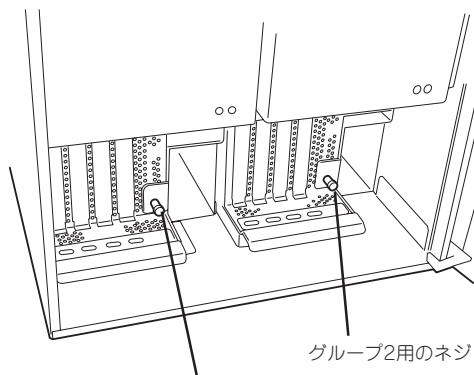
3. PCIモジュールに接続しているネットワークケーブルを外す。

4. 取り外すPCIモジュールを固定しているネジをゆるめる。



チェック

ネジをゆるめた瞬間、PCIモジュールへの電源の供給が停止します。ネジをゆるめる前にもう一度、取り外すPCIモジュールを確認してください(手順1参照)。



グループ1用のネジ

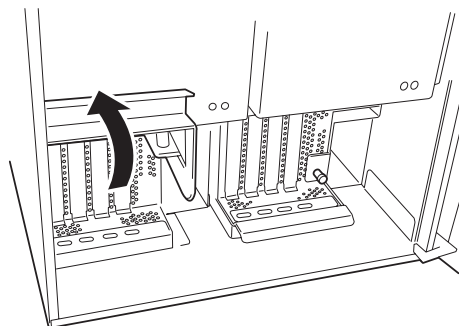
5. PCIモジュールのハンドルを持って、引き上げる。

PCIモジュールが少し前に引き出されます。



重要

ネジの頭を持って引き出さないでください。



6. ハンドルをしっかりと持ちながら、取り外しに関する警告ラベルが見えるまでゆっくりと静かに引き出す。

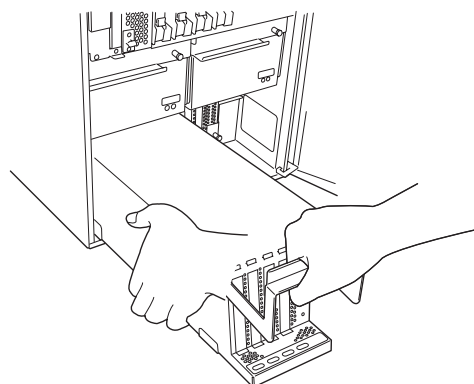
警告ラベルはPCIモジュールに貼られています。ラベルが見えるまでゆっくりと引き出してください。

7. 一方の手でハンドルを持ち、もう一方の手でPCIモジュールの底面をしっかりと支えながら本体から取り出す。



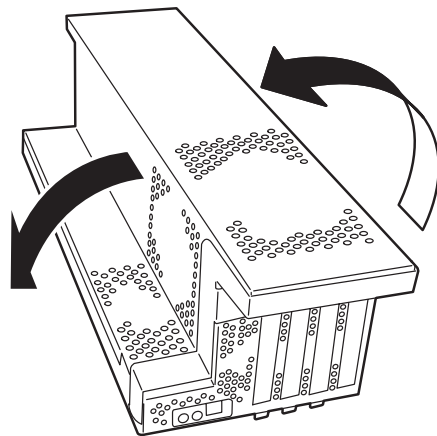
重要

PCIモジュールを落したり、装置内部の部品にぶついたりしないよう慎重に取り扱ってください。

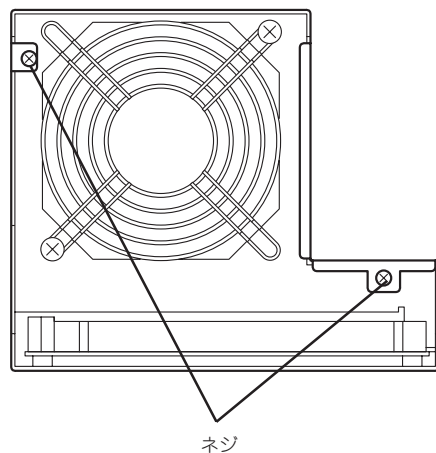


8. PCIモジュールを180度回転させてから、平らでじょうぶな机の上に静かに置く。

ほこりや水気のない場所においてください。

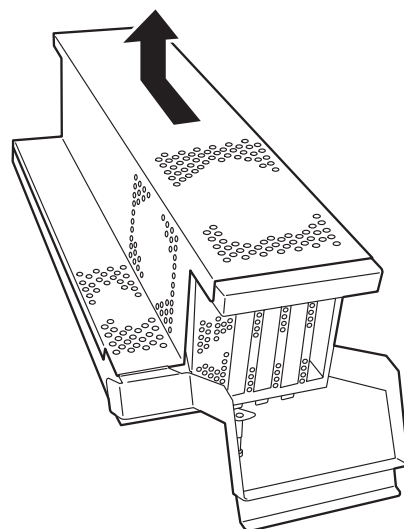


9. PCIモジュール背面にあるネジ(2本)を外す。



10. PCIモジュールを覆っているカバーを取り外す。

以上でPCIモジュール内部のデバイスを取り扱う準備ができました。以降の手順については、それぞれのデバイスの項を参照してください。



取り付け

次の手順に従ってPCIモジュールを取り付けます。



重要

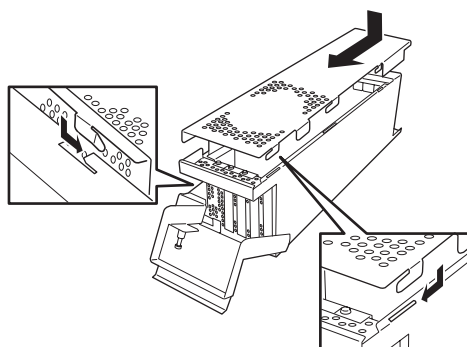
- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。
- 取り外してから5分以上、時間を空けてから取り付けてください。

1. PCIモジュールを覆っているカバーを取り付ける。

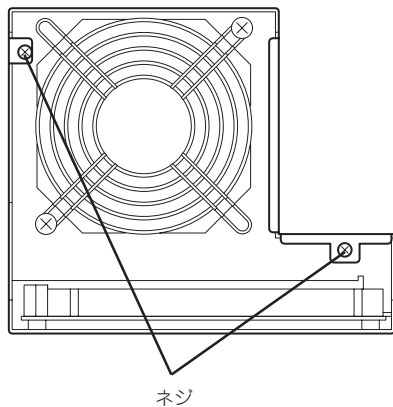


チェック

カバーにあるタブ(左右)がPCIモジュールに確実にフックしていることを確認してください。



2. ネジ(2本)でカバーを固定する。



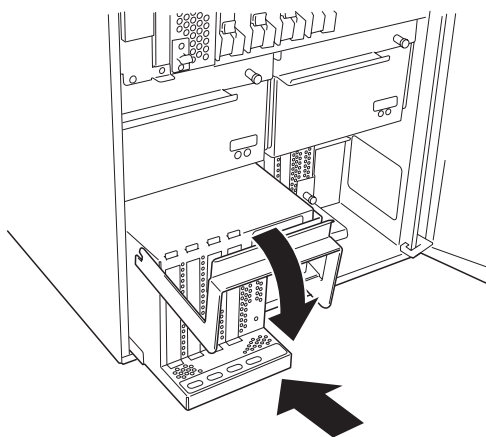
3. PCIモジュールを180度回転させてから、PCIモジュールを両手でしっかりと持って本体へ差し込む。
4. ハンドルを倒した状態のまま本体に突き当たるまで差し込む。
5. PCIモジュールのハンドルを引き下げる。

ハンドルの可動軸部分にあるフックが本体に引っかかり、装置に接続されます。



重要

ハンドルをネジで固定できるところまで完全に引き下げてください。

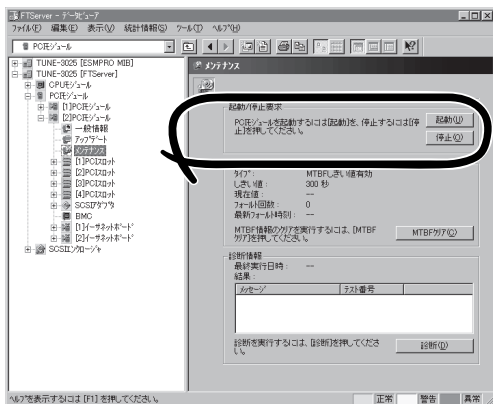


6. PCIモジュールのネジで固定する。
7. ネットワークケーブルを接続する。
8. 取り付けたPCIモジュールを起動させる。

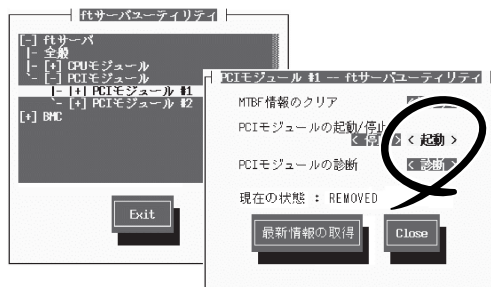
Express5800/ftサーバの初期設定では、PCIモジュールを取り付けると自動的に起動するようになっています。

自動的に起動しないように設定している場合は、Express5800/ftサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのftサーバユーティリティ、またはESMPRO/ServerManagerのデータビューアから起動させていただきます。

詳細は、第5章の「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



ESMPRO/ServerManagerの場合
[FTServer]-[(取り付けた)PCIモジュール]-[メンテナンス]-[起動/停止要求]-[起動]ボタン



ftサーバユーティリティの場合
[ftサーバ]-[PCIモジュール]-[(取り付けた)PCIモジュール]-[起動]ボタン

PCIボード

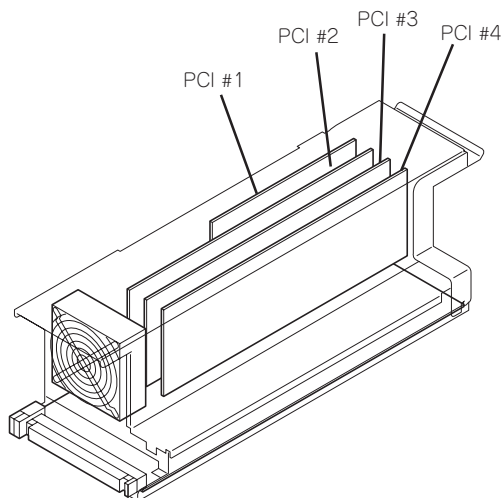
PCIモジュールには、PCIボードを4枚搭載することができます(ビデオボードを各1枚標準で搭載済み)。



- PCIボードは大変静電気に弱い電子部品です。サーバの金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからPCIボードを取り扱ってください。また、PCIボードの端子部分や部品を素手で触ったり、PCIボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は8-3ページで詳しく説明しています。
- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-4ページ)の説明を読んでください。
- PCI #1は標準装備のビデオボード専用のスロットです。取り外したり、他のボードと取り替えたりしないでください。



PCIボードを取り付けたり、取り外したり、取り付けていたスロットを変えたりした場合は、必要に応じてBIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を使って割り込みライン (IRQ) などの詳細な設定を変更してください。Express5800/ftサーバのI/O空間の設定については、付録Bを参照してください。



PCIモジュール

PCIボードの増設・交換の際は、次の点について注意してください。

- PCIボードを二重化させるためには、各グループの同一スロットに同一のボード(仕様や性能の同じもの)を取り付けてください。
一方のグループにPCIボードを取り付けたら、もう一方の同じスロットにもPCIボードを取り付けてください。取り外した場合も同じです。
- PCIボードはPCIボード番号の小さい順に取り付けてください。

取り付け

次の手順に従ってPCIボードスロットに接続するボードの取り付けを行います。

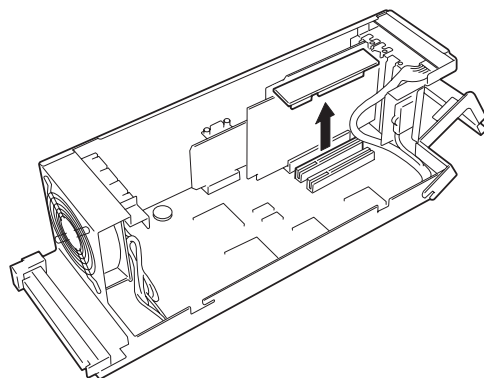


PCIボードを取り付けるときは、ボードの接続部の形状とPCIボードスロットのコネクタ形状が合っていることを確認してください。

1. 8-23ページを参照してPCIモジュールを取り外す。
2. 8-25ページを参照してPCIモジュールのカバーを取り外す。
3. ボードを取り付けるスロットを確認し、コネクタキャップを取り外す。

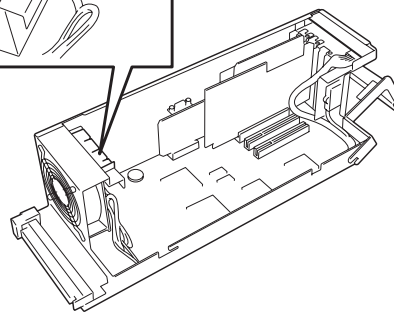
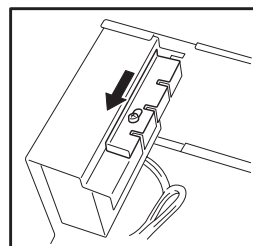
重要

取り外したコネクタキャップは、大切に保管しておいてください。



4. ロングカードを取り付ける場合は、ネジ(1本)をゆるめて、ブラケットをスライドさせてからブラケットをネジで固定する。

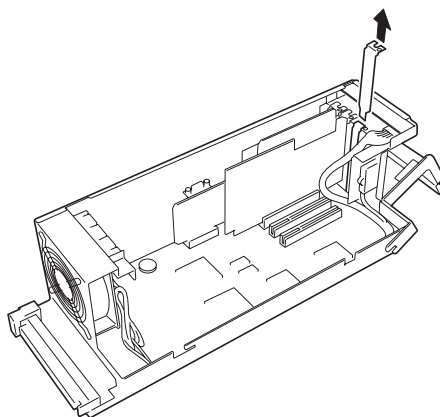
ロングカードの一方の端を固定するためのガイド用の溝ができます。



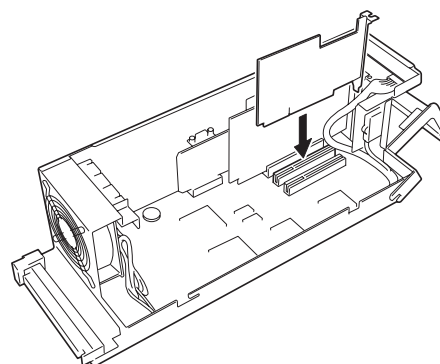
5. 取り付けるスロットと同じ位置(高さ)にある増設スロットカバーのネジ1本を外して取り外す。

重要

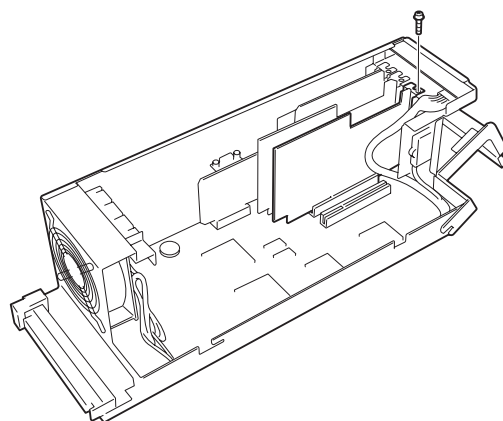
取り外した増設スロットカバーは、大切に保管しておいてください。



6. ガイドレールの溝にボードを合わせてゆっくりスロットへ差し込む。



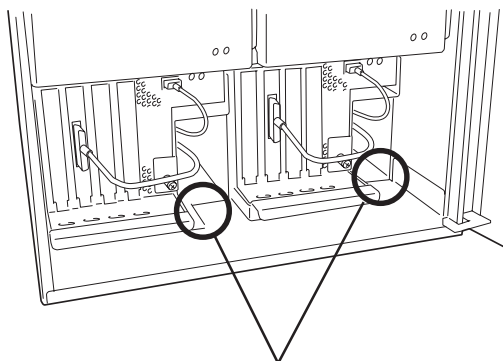
7. ボードの接続部分がスロットに確実に接続するようしっかりとボードを押し込む。



重要

- うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとボードを破損するおそれがありますので注意してください。
- 平らな台の上でPCIボードを取り付けようとすると、PCIボードのブラケットがPCIモジュール底面から少し飛び出たりするため、台に当たり取り付けにくくなることがあります。台の端を利用したり、PCIモジュールの正面側を少し浮かせたりしてPCIボードを取り付けてください。

8. ボードのブラケットを手順5で外したネジで固定する。
9. 8-26ページを参照してPCIモジュールのカバーを取り付ける。
10. 8-26ページを参照してPCIモジュールを取り付ける。
ネジによる固定はまだしません。
11. PCIボードにケーブルを接続する。
12. PCIモジュールをネジで固定する。
13. ESMPRO/ServerManagerまたはftサーバユーティリティからPCIモジュールを起動する。
14. もう一度、PCIボードにケーブルが確実に接続されていることを確認する。
15. ESMPRO/ServerManagerまたはftサーバユーティリティからPCIボードを起動する。
詳細は、第5章の「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。
16. ケーブルの余長部分をケーブルタイで固定する。



丸印の部分にあるケーブルタイで固定する
(ケーブルタイは筐体に添付されています)

取り外し

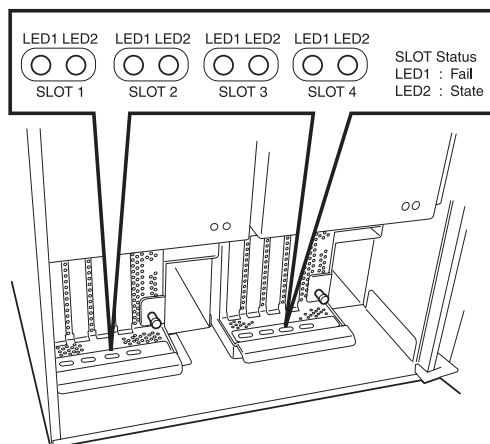
次の手順に従ってPCIボードを取り外します。

1. 8-23ページを参照してPCIモジュールを取り外す。
2. 8-25ページを参照してPCIモジュールのカバーを取り外す。
3. ボードを固定しているネジを外し、ボードを取り外す。
4. 取り外したスロットに増設スロットカバーを取り付ける。
5. 取り外したスロットにコネクタカバーを取り付ける。
6. 8-26ページを参照してPCIモジュールのカバーを取り付ける。
7. 8-26ページを参照してPCIモジュールを取り付ける。
8. ESMPRO/ServerManagerまたはftサーバーティリティからPCIモジュールを起動する。
詳細は、第5章の「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。

交 換

故障したPCIボードを交換する場合は次の手順を行ってください。

1. PCIボードランプを参照して、故障しているボードを確認する。
ボードが故障または正しく取り付けられていないと取り付けられているスロットのランプが2つとも消灯します。
2. 8-23ページを参照してPCIモジュールを取り外す。
3. 8-25ページを参照してPCIモジュールのカバーを取り外す。
4. 「取り付け」の手順5を参照して、PCIボードを固定しているネジを外す。
5. ボードを交換する。
6. 8-26ページを参照してPCIモジュールのカバーを取り付ける。
7. 8-26ページを参照してPCIモジュールを取り付ける。
ネジによる固定はまだしません。
8. PCIボードにケーブルを接続する。
9. PCIモジュールをネジで固定する。
10. ESM/PRO/ServerManagerまたはftサーバユーティリティからPCIモジュールを起動する。
詳細は、第5章の「ESM/PRO/ServerAgent, ServerManager」-「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



オプションPCIボードのセットアップ



- オプションデバイスのft機能を有効にするときは、グループ1とグループ2の同スロットに同じPCIボードを搭載する必要があります。
- スロット#1には、ビデオボードを標準で装備しています。取り外したり、他のボードに取り替えたりすることはできません。
- サポートしている接続デバイスについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

N8803-002 SCSIコントローラ

- 取り付けスロット一覧

型名	製品名	PCIスロット								備考
		グループ1				グループ2				
		#1	#2	#3	#4	#1	#2	#3	#4	
N8803-002	SCSIコントローラ	-	○	○	○	-	○	○	○	各PCIモジュールに1枚だけ実装可能

○ 搭載可能 - 搭載不可

このSCSIコントローラに限っては、グループ1または2のいずれかに1枚のみ搭載することもできます。ただし、この場合は、搭載していないグループの同じスロット番号にはなにも搭載することはできません。

- ドライバインストール手順

N8803-002 SCSIコントローラを実装してシステムを起動すると、自動的に使用可能となります。



N8803-002は、OSのインストールが終了した後に実装してください。

● PCIボードランプ点灯例

ランプの状態		意 味	対処方法
Failランプ	Stateランプ		
消灯	アンバー色に点灯	Simplexで動作しています。	テープ装置用SCSIカードはDuplex動作対象外なので問題ありません。
消灯	緑色に点灯	—	—
消灯	消灯	PCIボードが取り付けられていないが、正しく取り付けられていない、または電源が供給されていない。	PCIボードを正しく取り付けてください。 ボードを取り付けていない場合は、特に問題ありません。 電源ユニットの状態を確認してください。 PCIモジュールを取り付け直してください。
赤色に点灯	アンバー色に点灯	PCIボードがソフトウェア制御テスト中が、動作準備中。	表示が変わるまでしばらく待ってください。 表示が変わらない場合は、ESMPRO/ServerManagerから取り付けたボードの-slotの状態を確認してください。
赤色に点灯	消灯	PCIボードは正しく取り付けられているが、機能していないか、オフラインの状態にある。	ESMPRO/ServerManagerから取り付けたボードのslotをオンラインにしてください。 PCIボードを正しく取り付けてください。

N8804-001P1 100BASE-TX接続ボードセット

● 取り付けスロット一覧

型 名	製品名	PCIスロット								備 考
		グループ1				グループ2				
		#1	#2	#3	#4	#1	#2	#3	#4	
N8804-001P1	100BASE-TX接続ボードセット	—	○	○	○	—	○	○	○	

○ 搭載可能 — 搭載不可

● ネットワーク設定について

N8804-001P1 100BASE-TX接続ボードセットを実装してシステムを起動した後、ネットワークの設定を行ってください。設定手順は、「NICの設定(3-20ページ)」を参照してください。

● PCIボードランプ点灯例

ランプの状態		意味	対処方法
Failランプ	Stateランプ		
消灯	アンバー色に点灯	PCIボードが正しく取り付けられ、二重化の設定をしていない状態で動作している。(片系、両系(シンプレックス、デュプレックス)に依存しない。)	二重化の設定を行ってください。
		二重化設定時でも片系のみ状態で動作している。	二重化の設定を行ってください。
消灯	緑色に点灯	POST動作中、またはPCIボードが正しく取り付けられ、二重化の設定を行っている状態です。	二重化で正常に動作している。
消灯	消灯	PCIボードが取り付けられていないか、正しく取り付けられていない、または電源が供給されていない。	PCIボードを正しく取り付けてください。ボードを取り付けていない場合は、特に問題ありません。電源ユニットの状態を確認してください。PCIモジュールを取り付け直してください。
赤色に点灯	緑色に点灯	二重化の構築/解除中。	表示が変わるまでしばらく待ってください。表示が変わらない場合は、ESMPRO/ServerManagerから取り付けたボードのスロットの状態を確認してください。
赤色に点灯	消灯	PCIボードは正しく取り付けられているが、機能していないか、オフラインの状態にある。	ESMPRO/ServerManagerから取り付けたボードのスロットをオンラインにしてください。PCIボードを正しく取り付けてください。

N8803-030 Fibre Channelコントローラ(Copper) N8803-031 Fibre Channelコントローラ(Optical)

● 取り付けスロット一覧

型名	製品名	PCIスロット								備考
		グループ1				グループ2				
		#1	#2	#3	#4	#1	#2	#3	#4	
N8803-030/ N8803-031	Fibre Channelコントローラ	—	○	○	○	—	○	○	○	各PCIモジュールに1枚だけ実装可能

○ 搭載可能 — 搭載不可

● ドライバインストール手順

N8803-030/031 Fibre Channelコントローラを実装してシステムを起動すると、ドライバが自動的に使用可能となります。

重要 N8803-030/031は、OSのインストールが終了した後に実装してください。また、N8803-030/031は2枚1組で使用します。各PCIモジュールの同じスロット位置にそれぞれ1枚ずつ実装してください。なお、N8803-030/031の混載はできません。

● PCIボードランプ点灯例

ランプの状態		意味	対処方法
Failランプ	Stateランプ		
消灯	アンバー色に点灯	Fibre Channelディスクアレイ装置が接続されていないか、もしくは正しく接続されていない（二重化されていない）。	Fibre Channelディスクアレイ装置との接続を確認してください（詳しくはFibre Channelディスクアレイ装置の取扱説明書を参照してください）。
消灯	緑色に点灯	二重化で正常に動作している。	—
消灯	消灯	PCIボードが取り付けられていないか、正しく取り付けられていない、または電源が供給されていない。	PCIボードを正しく取り付けてください。ボードを取り付けていない場合は、特に問題ありません。電源ユニットの状態を確認してください。PCIモジュールを取り付け直してください。
赤色に点灯	アンバー色に点灯	PCIボードがソフトウェア制御テスト中か、動作準備中。	表示が変わるまでしばらく待ってください。表示が変わらない場合は、ESMPRO/ServerManagerから取り付けられたボードのスロットの状態を確認してください。
赤色に点灯	消灯	PCIボードは正しく取り付けられているが、機能していないか、オフラインの状態にある。	ESMPRO/ServerManagerから取り付けられたボードのスロットをオンラインにしてください。PCIボードを正しく取り付けてください。

N8104-84 1000BASE-SX接続ボード

この製品にサポートには、ソフトウェアやハードウェアのレビジョンアップが必要になる場合があります。お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 取り付けスロット一覧

型名	製品名	PCIスロット								備考
		グループ1				グループ2				
		#1	#2	#3	#4	#1	#2	#3	#4	
N8104-84	1000BASE-SX接続ボード	—	○	○	○	—	○	○	○	各PCIモジュールに1枚だけ実装可能。

○ 搭載可能 — 搭載不可

● ネットワーク設定について

N8804-001P1 100BASE-TX接続ボードセットを実装してシステムを起動した後、ネットワークの設定を行ってください。設定手順は、「NICの設定(3-20ページ)」を参照してください。



N8104-84 1000BASE-SX接続ボードは、OSのインストールが終了した後に実装してください。また、N8104-84 1000BASE-SX接続ボードは、2枚1組で使用します。各PCIモジュールの同じスロット位置にそれぞれ一枚ずつ実装してください。

● PCIボードランプ点灯例

ランプの状態		意味	対処方法
Failランプ	Stateランプ		
消灯	アンバー色に点灯	PCIボードが正しく取り付けられ、二重化の設定をしていない状態で動作している。(片系、両系(シンプレックス、デュプレックス)に依存しない。)	二重化の設定を行ってください。
		二重化設定時でも片系のみで動作している。	二重化の設定を行ってください。
消灯	緑色に点灯	POST動作中、またはPCIボードが正しく取り付けられ、二重化の設定を行っている状態です。	二重化で正常に動作している。
消灯	消灯	PCIボードが取り付けられていないか、正しく取り付けられていない、または電源が供給されていない。	PCIボードを正しく取り付けてください。ボードを取り付けていない場合は、特に問題ありません。電源ユニットの状態を確認してください。PCIモジュールを取り付け直してください。
赤色に点灯	緑色に点灯	二重化の構築/解除中。	表示が変わるまでしばらく待ってください。表示が変わらない場合は、ESMPRO/ServerManagerから取り付けたボードのスロットの状態を確認してください。
赤色に点灯	消灯	PCIボードは正しく取り付けられているが、機能していないか、オフラインの状態にある。	ESMPRO/ServerManagerから取り付けたボードのスロットをオンラインにしてください。PCIボードを正しく取り付けてください。

N8104-90 1000BASE-T接続ボード

この製品にサポートには、ソフトウェアやハードウェアのレビジョンアップが必要になる場合があります。お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 取り付けスロット一覧

型名	製品名	PCIスロット								備考
		グループ1				グループ2				
		#1	#2	#3	#4	#1	#2	#3	#4	
N8104-90	1000BASE-T接続ボード	—	○	○	○	—	○	○	○	各PCIモジュールに1枚だけ実装可能

○ 搭載可能 — 搭載不可

● ネットワーク設定について

N8804-001P1 100BASE-TX接続ボードセットを実装してシステムを起動した後、ネットワークの設定を行ってください。設定手順は、「NICの設定(3-20ページ)」を参照してください。

重要 N8104-90 1000BASE-T接続ボードは、OSのインストールが終了した後に実装してください。また、N8104-90 1000BASE-T接続ボードは、2枚1組で使用します。各PCIモジュールの同じスロット位置にそれぞれ一枚ずつ実装してください。

● PCIボードランプ点灯例

ランプの状態		意味	対処方法
Failランプ	Stateランプ		
消灯	アンバー色に点灯	PCIボードが正しく取り付けられ、二重化の設定をしていない状態で動作している。(片系、両系(シンプレックス、デュプレックス)に依存しない。) 二重化設定時でも片系だけの状態で動作している。	二重化の設定を行ってください。 二重化の設定を行ってください。
消灯	緑色に点灯	POST動作中、またはPCIボードが正しく取り付けられ、二重化の設定を行っている状態です。	二重化で正常に動作している。
消灯	消灯	PCIボードが取り付けられていないか、正しく取り付けられていない、または電源が供給されていない。	PCIボードを正しく取り付けてください。ボードを取り付けていない場合は、特に問題ありません。電源ユニットの状態を確認してください。PCIモジュールを取り付け直してください。
赤色に点灯	緑色に点灯	二重化の構築/解除中。	表示が変わるまでしばらく待ってください。表示が変わらない場合は、ESMPRO/ServerManagerから取り付けられたボードのスロットの状態を確認してください。
赤色に点灯	消灯	PCIボードは正しく取り付けられているが、機能していないか、オフラインの状態にある。	ESMPRO/ServerManagerから取り付けられたボードのスロットをオンラインにしてください。PCIボードを正しく取り付けてください。

内蔵デバイスベイ増設キット

N8851-001 内蔵デバイスベイ増設キットは、タワーモデルのExpress5800/ftサーバ専用のオプションです。

このキットを取り付けることにより、タワーモデルにテープバックアップシステムなどのファイルデバイス(5.25インチデバイス)を搭載することができます。

構成品の確認

内蔵デバイスベイ増設キットの梱包箱の中身を「N8851-001 内蔵デバイスベイ増設キット 組み立て・取り扱いに手引き」に記載された構成品表に従って確認してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。

取り付け

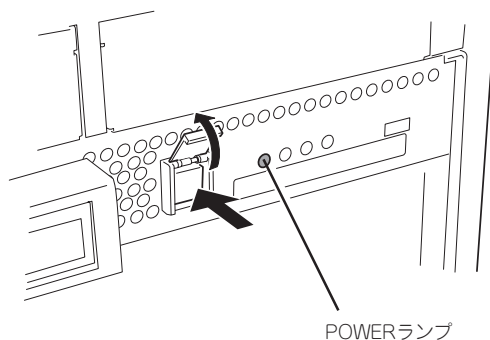
次の手順で取り付けます。

準備

構成品の確認後、次の手順で取り付けの準備をします。

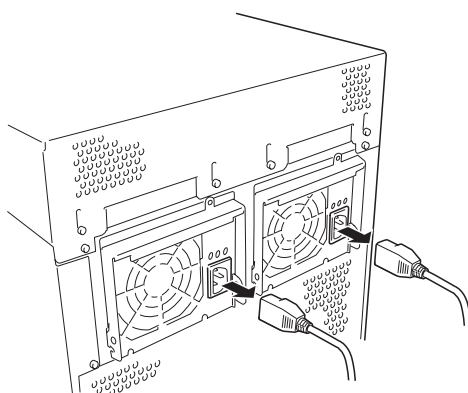
1. OSから正しくシャットダウン処理をする。

POWERスイッチを押下し、装置本体の電源をOFF (POWERランプ消灯) にします。



2. Express5800/ftサーバの電源コードをコンセントから抜く。

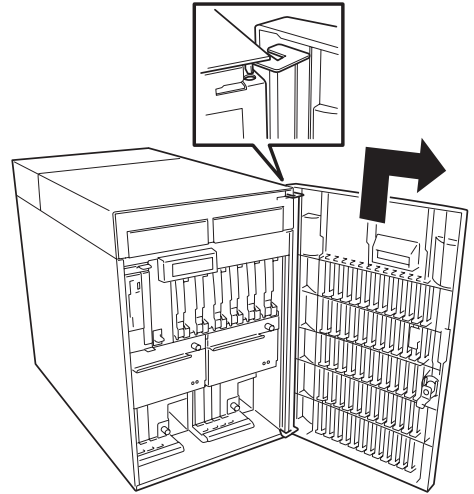
3. Express5800/ftサーバ背面に接続しているケーブルをすべて取り外す。



カバーの取り外し

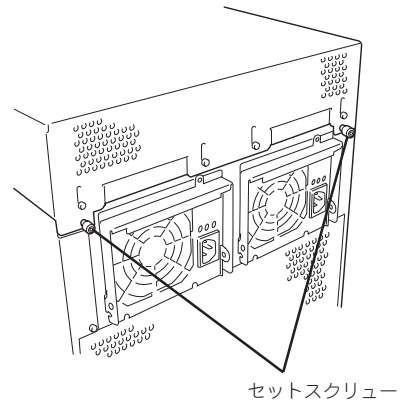
フロントベゼルとトップカバーを取り外します。

1. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除する。
2. フロントベゼルを開く。
3. フロントベゼルを少し上に持ち上げてから、手前に引いて取り外す。
フロントベゼルのフック部分が装置前面にある取り付け穴から外れて取り外せます。

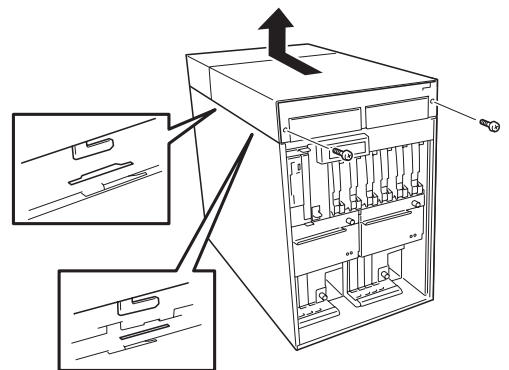


システムのアップグレード

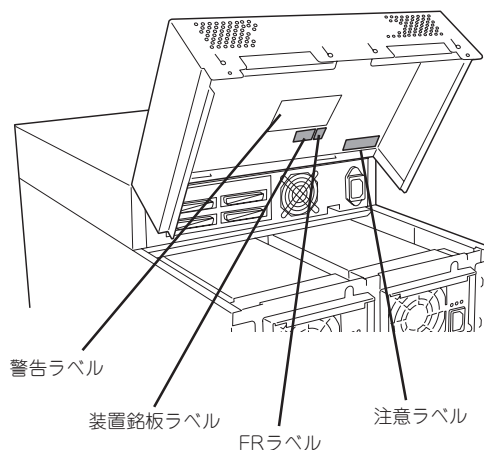
4. 装置背面からセットスクリュー(2本)をゆるめる。



5. 装置前面からネジ(2本)を外す。
6. 装置後方に少し引いてから持ち上げてトップカバーを取り外す。



7. FRラベルと装置銘板ラベル、注意ラベルを貼り付ける。



フロントベゼルを取り付けるときは、フロントベゼルのフック部分(上下2カ所)が本体左側のフレームの穴に確実に差し込まれていることを確認してください。

また、取り付け後は、セキュリティキーでフロントベゼルをロックしてください。

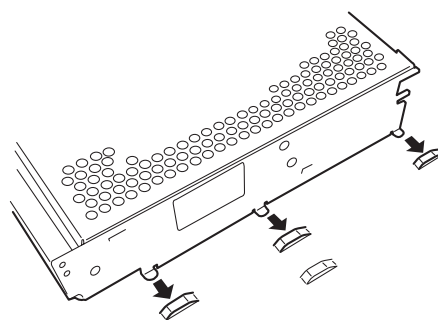
トップカバーは「取り外し」と逆の手順で取り付けることができます。

トップカバーにあるフックがExpress5800/ftサーバのフレームに確実に差し込まれていることを確認してください。

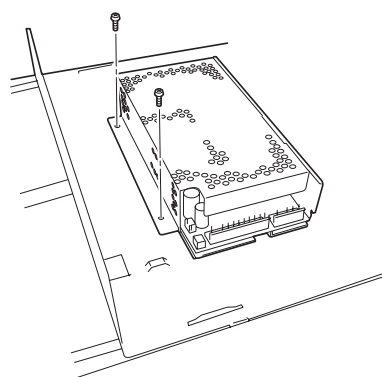
増設キットの取り付け

次の手順に従って取り付けます。

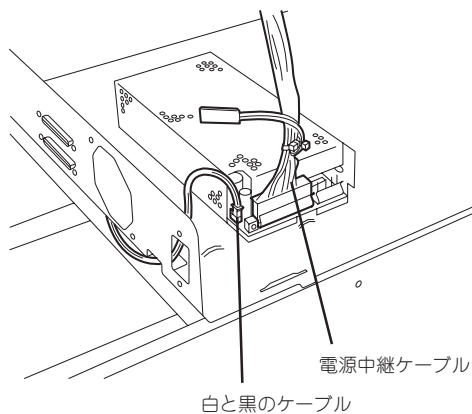
1. 電源ユニットのツメ(3カ所)をExpress5800/ftサーバのフレームにあるフックに引っかける。



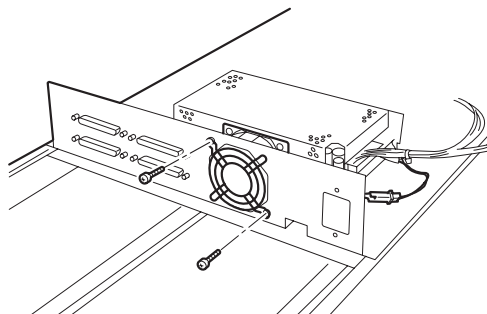
2. ネジ(2本)で固定する。



- 電源中継ケーブルとExpress5800/ftサーバからでているケーブル(白と黒のケーブル)を電源ユニットに接続する。

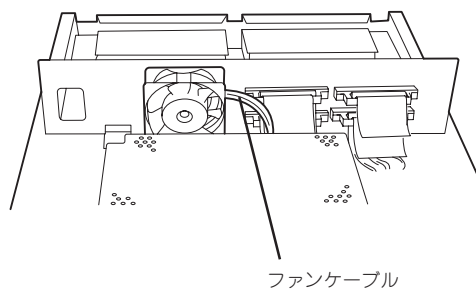


- ファンをフィンガーガードと一緒に固定する。
- ファンケーブルを電源中継ケーブルに接続する。

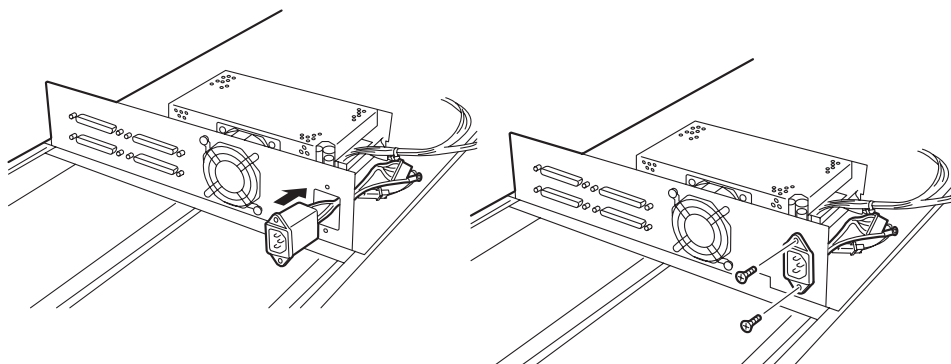


✓ チェック

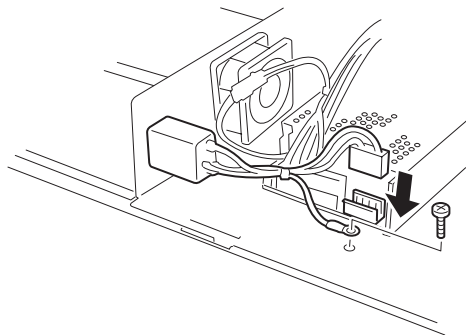
ファンの向きをファンケーブルの向きで確認してください。



- 電源ケーブルを5.25インチデバイスベイのリアパネルから通し、皿ネジ(2本)で固定する。

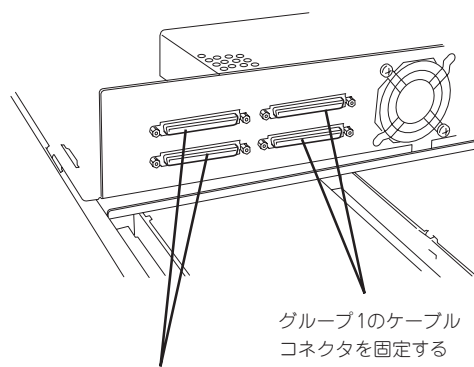


7. 電源ケーブルを電源ユニットに接続し、接地線をExpress5800/ftサーバに固定する。



8. SCSIケーブル両端のコネクタにあるネジをゆるめ、5.25インチデバイスベイのリアパネルなるコネクタスロットに差し込んでからゆるめたネジを締めて固定する。

リアパネルのフレームをコネクタのブラケットとネジで挟むようにして固定します。



グループ1のケーブル
コネクタを固定する

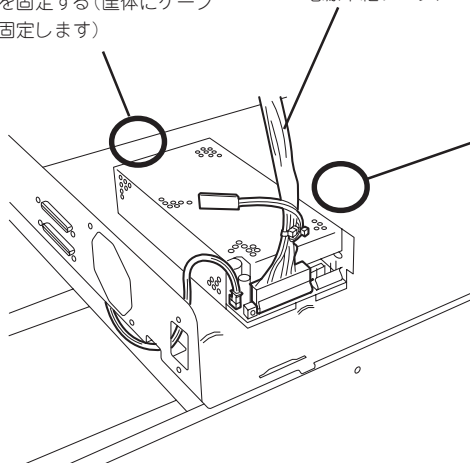
グループ2のケーブル
コネクタを固定する

9. ケーブルの余長部分をケーブルタイで固定する。

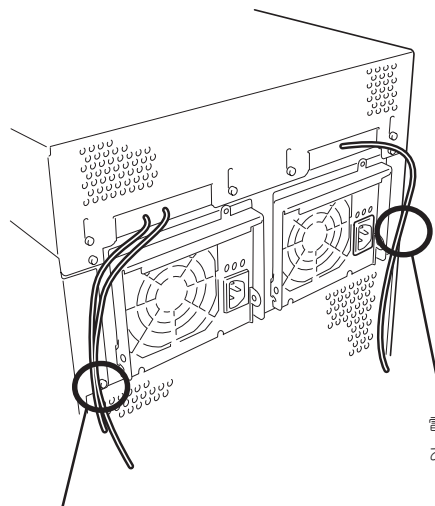
ケーブルタイは、キットに添付のものおよび筐体に添付のものをそれぞれ使用します。

丸印の部分でキットに添付のケーブルタイ(250mm)を使ってSCSIケーブルを固定する(筐体にケーブルタイを固定します)

電源中継ケーブル



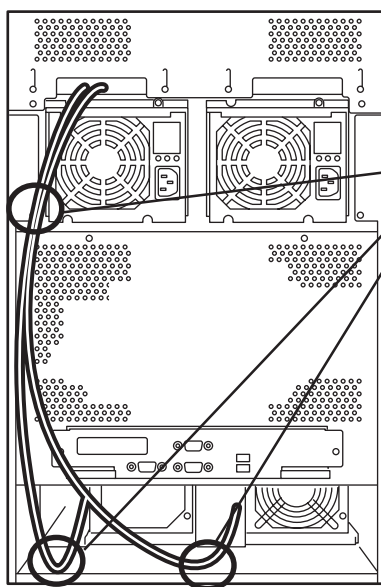
丸印の部分でキットに添付のケーブルタイ(100mm)を使って電源中継ケーブルを固定する(筐体にケーブルタイを固定します)



電源ケーブル(3本)を丸印の部分にあるケーブルタイで固定する

SCSIケーブルを丸印の部分にあるケーブルタイで固定する

* ケーブルタイは筐体に添付されています。



SCSIケーブルを丸印の部分にあるケーブルタイで固定する

* ケーブルタイは筐体に添付されています。

以上で完了です。添付の電源コードとSCSIターミネータはデバイスを取り付けるまで接続せず、大切に保管しておいてください。
 デバイスの取り付けについては、この後の「5.25インチデバイス」を参照してください。

取り外し

5.25インチデバイスを取り外し後、「取り付け」の逆の手順で取り外してください。

5.25インチデバイス

5.25インチデバイスは、タワーモデルのExpress5800/ftサーバにのみ取り付けことができます。ラックマウントモデルの場合は、別売のデバイス増設ユニットに接続することで使用できるようになります。

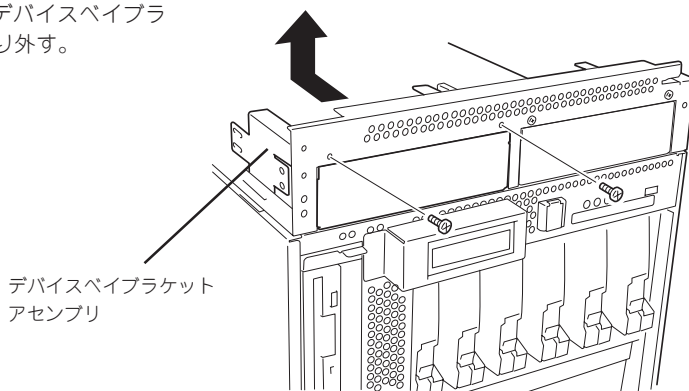
タワーモデルに搭載するためには、別売の「N8851-001 内蔵デバイスベイ増設キット」および「SCSIコントローラ(PCIボード)」が必要です。取り付けについては、この前の項を参照してください。



- 取り付ける5.25インチデバイスの終端抵抗の設定は「OFF」に、SCSI IDは他のデバイスと重複しないように設定してください。設定方法については、それぞれの装置のマニュアルを参照してください。
- ダブルハイトのデバイスは取り付けられません。取り付けることができるデバイスはシングルハイトのデバイスのみです。
- SCSIケーブルのコネクタに50ピン変換用コネクタが装着されています。変換用コネクタは取り外して接続してください。なお、取り外した変換コネクタは他のデバイスに取り付けるときに必要です。大切に保管しておいてください。また、ケーブルの接続の際には、デバイスにケーブルがはさまれないよう十分注意してください。
- ケーブルの接続方法によっては、1つのグループから2台のデバイスに接続することもできますが、ftサーバとしての機能を利用するためにもグループ別にも同じバックアップデバイスを接続して、定期的にグループごとのバックアップをとることをお勧めします。

取り付け

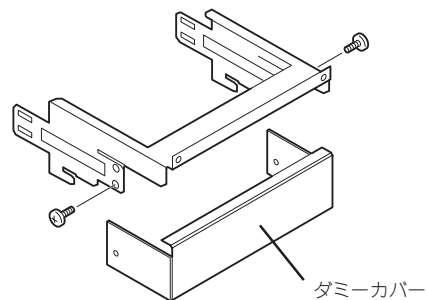
1. 8-43ページの「内蔵デバイスベイ増設キット」-「取り付け」-「準備」を参照して装置の電源をOFFにし、接続しているすべての電源コードや周辺機器とのインタフェースケーブルを取り外す。
2. 8-44ページの「内蔵デバイスベイ増設キット」-「取り付け」-「カバーの取り外し」を参照してフロントベゼルとトップカバーを取り外す。
3. ネジ(2本)を外して、デバイスベイブラケットアセンブリを取り外す。



4. ネジ(各1本)を外し、ダミーカバーを取り外す。

重要

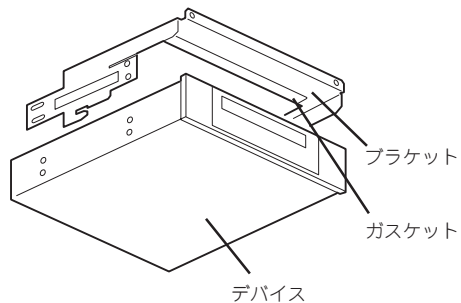
取り外したダミーカバーは大切に保管しておいてください。



5. ブラケットをデバイスの上にかぶせる。

重要

デバイスの上部に電子回路が露出してなく、シャーシで覆われているときは、ガスケットをブラケットに貼り付けてください。



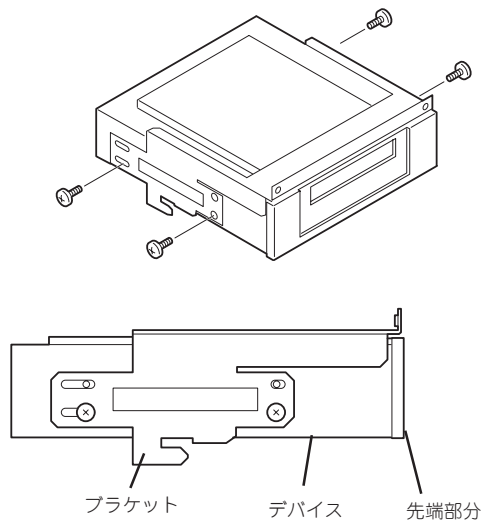
6. ダミーカバーから取り外したブラケットをデバイスに取り付ける。

重要

ネジはデバイスに添付のものを使用してください。デバイスに添付されていない場合のみ、ブラケットを固定していたネジを代用してください。

チェック

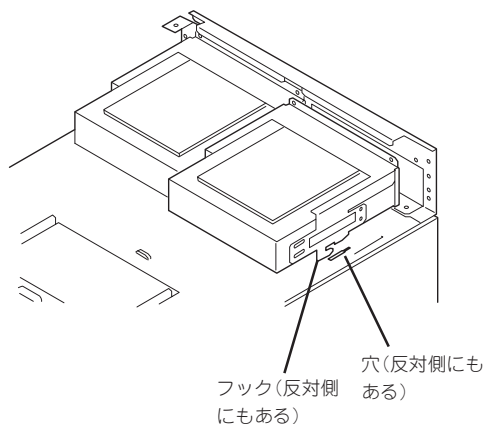
ブラケットの先端とデバイスの先端が同じ位置になるくらいにしてブラケットを固定します。



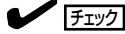
7. デバイスをデバイスベイに取り付ける。

チェック

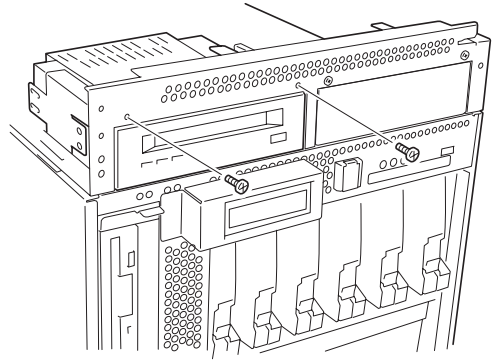
ブラケットのフック部分がデバイスベイの穴に差し込まれていることを確認してください。



8. デバイスを手順3で外したネジで固定する。



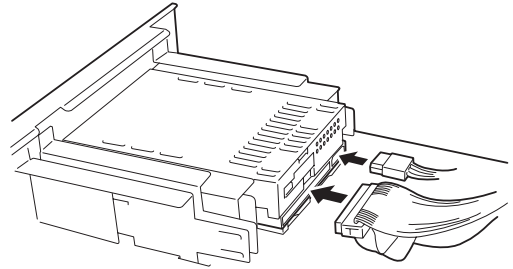
取り付けた5.25インチデバイスが、Express5800/ftサーバ前面から飛び出しすぎていないかどうか確認してください。飛び出しすぎていたり、引っ込みすぎているときはいったん取り外してブラケットの取り付け位置を調整してください。



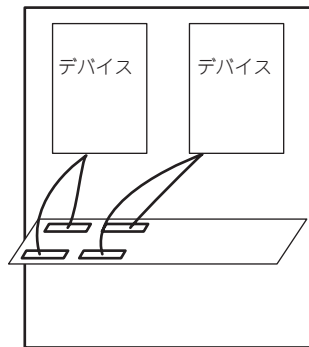
9. デバイ스에 인터フェースケーブルと電源ケーブルを接続する。



SCSIケーブルのコネクタに50ピン変換用コネクタが装着されています。変換用コネクタは取り外して接続してください。なお、取り外した変換コネクタは他のデバイスに取り付けるときに必要です。大切に保管しておいてください。また、ケーブルの接続の際には、デバイスにケーブルがはさまれないよう十分注意してください。



前面



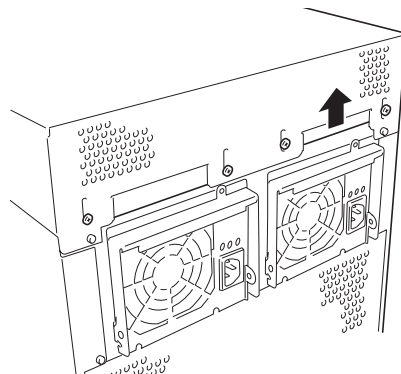
背面

上から見た内部インターフェースケーブル接続図

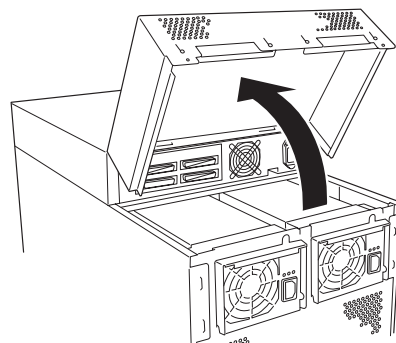
10. 手順2で取り外したトップカバーとフロントベゼルを取り付ける。

トップカバーの背面側のネジ(2本)はまだ、とめないでください。

11. トップカバーの背面にあるケーブルカバーのネジ(各2本)をゆるめ、シャッターを持ち上げてからネジで固定する。



12. トップカバーのケーブルカバーを開ける。



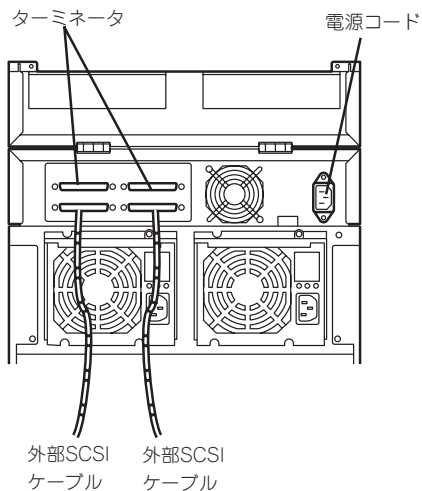
13. 外部SCSIケーブルと電源コード(内蔵デバイスベイ増設キットの添付品)を接続する。

インタフェースケーブルの接続には2つの方法があります。

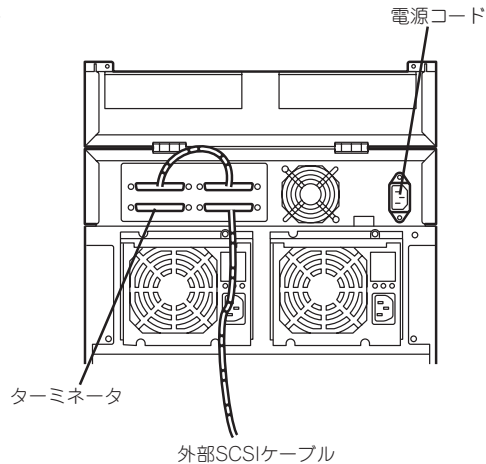
例1に示す接続は、2枚のSCSIコントローラボードにそれぞれデバイスを接続する方法です。ボードに接続した外部SCSIケーブル(内蔵デバイスベイ増設キットの添付品)でSCSIコントローラボードとそれぞれのデバイスを1対1で接続します。

例2に示す接続は、1枚のSCSIコントローラボードに2台のデバイスをディジーチェーン接続する方法です。この接続では、ケーブル長に注意する必要があります。SCSIケーブルの総ケーブル長が6m以内であることを確認してください(デバイスベイ内のケーブル長は2m、SCSIカードからデバイスベイまでのケーブル長は1.5m、デバイスベイ間のケーブル長は0.3mです)。

<例1>



<例2>

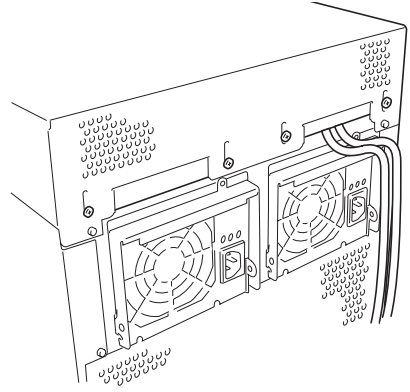


14. SCSIケーブルと電源コードをシャッタから出すようにしながら、ケーブルカバーを閉じる。

**チェック**

ケーブルが電源ユニットのファンの通風口をふさがないようにフォーミングしてください。

14. 4-15ページの「SCSI BIOS」を参照してセットアップをする。



取り外し

取り外しは、「取り付け」の逆を行ってください。